

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月1日現在

機関番号：12611

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2009～2011

課題番号：21560664

研究課題名（和文）

大工由緒書・儀礼書の研究

研究課題名（英文）

Study of Carpenter etiquette books, Rituals of Construction

研究代表者

宮内 貴久 (MIYAUCHI TAKAHISA)

お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科学研究科・准教授

研究者番号：10327231

研究成果の概要（和文）：福島県奥会津地方では、一人前認められると師匠から、大工由来譚・儀礼次第などが記された巻物を伝授される。こうした番匠巻物の所在について、建築学でも断片的に報告されてきたが、特定の流派がどのように分布しているか解明するには至っていない。

本研究では、①番匠巻物は全国的に存在するのか。②奥会津地方最古の番匠巻物である1758年(宝暦9)年の銘がある「番匠十六巻一切之大事」について、その元となるテキストは何か？全国的に分布しているのかを解明することを目的とした。

現在でも、番匠巻物を伝授している地域は福島県奥会津地方のみであること、幕末頃までは全国各地で伝授されていたことが明らかとなった。唯一神道系統の文書は青森県、長野県、富山県、石川県、福井県、和歌山県、福岡県に存在することが明らかになった。

「番匠十六巻一切之大事」は奈良県桜井市の三輪神社の系譜を継ぐもので有り、三輪（御流）神道・真言密教の文書であることが、三輪神社史料・高野山大学所蔵史料から明らかとなった。

さらに三輪神道系統の文書は、秋田県、福島県、埼玉県、神奈川県、静岡県、石川県、京都府、和歌山県、兵庫県、徳島県、長崎県に存在していることが明らかとなった。また最古のものは長崎県立歴史文化博物館所蔵山口麻太郎史料の「大工口伝呪法」で、慶長16年(1611)に肥前国松浦郡名護屋の大工が伝授された巻物である。

研究成果の概要（英文）：That teach the scrolls in the Aizu region of Fukushima at the back and admitted one person before Carpenter origin-and rites as soon as noted from the master. Is has been reported in fragments and architectural about the whereabouts of these banjo rolls, not yet, to clarify how certain schools and distributed. This study, 1 banjo rolls in on a nationwide or. (2), Inscription about a "banjo, volume 16 no, important" a 1758 (0/1759) Oku Aizu region's oldest banjo rolls in, something which the original text is? all aimed to elucidate whether distributed in the country of. Even now, it had been taught throughout the country until around the end of Edo period, Aizu region of Fukushima at the back only and became clear areas that are taught banjo rolls. Yuitsu Shinto exists in Aomori, Nagano, Toyama, Ishikawa, Fukui, Wakayama, Fukuoka revealed that Shinto system documents. "Banjo, volume 16 no, important" will succeed genealogy Miwa shrine in Sakurai, Nara Prefecture in the document (control flow) Miwa Shinto and Shingon Buddhism, Koyasan University collection of historical materials from the Miwa shrine archives and became clear. Further exists in Akita, Fukushima, Saitama, Kanagawa, Shizuoka, Ishikawa, Kyoto, Wakayama, Hyogo, Tokushima, Nagasaki and became clear Miwa Shinto system documents. Is one of the oldest "of Nagasaki Prefectural culture Museum owning Yamaguchi hemp taro historical Carpenter oral intoxicated" also in the scrolls Nago person Matsuura district, Hizen country carpenters were instructed in the 0/1611.

交付決定額

(金額単位：円)

|        | 直接経費      | 間接経費    | 合計        |
|--------|-----------|---------|-----------|
| 2009年度 | 500,000   | 150,000 | 650,000   |
| 2010年度 | 500,000   | 150,000 | 650,000   |
| 2011年度 | 500,000   | 150,000 | 650,000   |
| 総計     | 1,500,000 | 450,000 | 1,950,000 |

研究分野：建築学

科研費の分科・細目：建築史・建築意匠

キーワード：大工儀礼書、建築儀礼、三輪神道

1. 研究開始当初の背景

日本建築史学において、木割書研究は内藤昌らの研究により『日本番匠記』系本の系統など書誌学的研究、あるいは法隆寺の大工に伝わる『愚子見記』の翻刻と解説など1980年代に後半に一応の研究成果かがあげられた[内藤1988]。こうした日本建築史学の木割書研究は、建仁寺流、四天王寺流など近世の大工集団が保持した技術・由緒・儀礼次第の概略が解明された。また、谷直樹による中井家の研究に代表されるように、近世の中央における大工支配が明らかにされ、各地域の大工集団の活動範囲を解明する研究もわずかであるが進められている[谷1992]。とは言え、在地の大工集団の技術・由緒書・儀礼書まで解明されたわけではない。

近世日本は商業出版が初めて確立し、三都を中心にして書籍が版本・写本という形で流通していった時代であった。それは文化史上、「文字」による文化の流布という画期的なことであった。その流れの中で、秘伝とされた木割書が雛形本として多数刊行され、儀礼関係では家相見としても高名であった松浦東鶏が『匠家故実録』を出版するなど、建築に関わる知識が広範囲に流布していった。

本研究は、①書籍・出版が媒介する知識が各地の大工に果たした歴史的役割とその歴史的意義を考察する。②文字を操る大工の民俗社会での位相について明らかにする。③特に大工儀礼書に多大な影響を与えたと考えられる三輪神道と大工と関係について解明する。この三点を研究の目的とする。

福島県奥会津地方を中心にして大工の系譜関係・儀礼書について調査研究を進めてきた。その結果、①福島県金山町の田邊奎之進という大工が、宝暦年間に水戸の大工大畑彦左衛門から伝授された『番匠十六巻一流之大事』という大工儀礼書が伝授されたこと。②同巻は現在でも奥会津地方の大工の間で伝授されていること。③同巻と同じ内容の巻物が、埼玉県秩父郡皆野町、徳島県阿南市、石川県金沢市にも存在していること。④同巻は

三輪神道の系譜を受け継ぐことを解明した。

大工が所蔵する儀礼書・巻物に関する日本建築史学からの研究では、内藤昌が荻生徂徠の『政断』を引用して17世紀末の江戸の大工は巻物を所持していたこと、近世を代表する大工集団間では17世紀頃から由緒・儀礼次第が記された巻物が作成されたことを報告しており[内藤1981]、江戸幕府作事方大棟梁を務めた甲良家には『神拝式書』という儀礼書を所蔵している[国立歴史民俗博物館1996]。この他にも永井則男[永井1984]や狩野勝重[狩野1989]の研究などがあるが、木割書研究に比べると非常に少ない。

竹中道具史料館所蔵(兵庫県神戸市)の大工儀礼書が増穂残口という享保期の神道家が記したこと、福井県越前市で『日本番匠記』という内題を持つ大永5年(1525)の銘を持つ巻物が『日本番匠記』系本であること、大工自身が積極的に文字知を獲得していることを明らかにした[宮内2008]。さらに、全国各地の図書館・文書館での史料調査により大工儀礼書が存在すること、大工儀礼書研究は日本建築史学の新たな研究分野になり得る重要な研究分野であると主張した。

近世の神道において唯一(吉田)神道が、神道の体系化・支配を進めたことは近年の研究では、大工儀礼書研究は建築史学では研究が進められてこなかったが、日本近世史研究において職人と由緒研究が進められてきた。また、民俗学でも職人巻物研究が進められてきた。井上智勝の研究が詳しい[井上2007]。私の調査研究でも福井市で「唯一神道上棟次第」、福岡県福岡市の黒田藩大工棟梁を務めた林家女書にあることが確認された。

これまでの調査研究では、①三輪神道系統の大工儀礼書が東北から四国まで全国的に分布していること。②「番匠十六巻一流之大事」系本だけではなく、永井則男が報告した『大工老八神道三輪流両部守護』のような「一八系統」も存在すること[宮内2009]。③和歌山県の根来大工棟梁鳥羽家文書「番匠拾八通之切紙」は、寛永15年(1638)と管見で

は最古の文書であり、文政6年(1823)にも書写されていること。④版本存在すること。さらに、高野山史料から三輪神道系儀礼書の方が唯一神道よりも古いという印象を持った。以上のことから、大工儀礼書研究の中でも、三輪神道系大工儀礼書研究は、日本建築史学研究の重要な研究分野であり、それは歴史学・民俗学にも重要な領域であると考える。

## 2. 研究の目的

三輪神道系統の大工儀礼書の所在調査、書写年代、所蔵者などその実態を解明し、三輪神道が建築儀礼に与えた影響を明らかにする。

## 3. 研究の方法

本研究では、三輪神道系統の大工儀礼書「番匠十六巻一流之大事」「番匠拾八通之切紙」を中心にして、その所在調査を全国規模で行っていく。

また、これらの所在調査を行った上で、それぞれの儀礼書の地理的分布について検討し、これまで解明された大工集団との比較を行う。これまでの調査研究成果から、特に和歌山県の根来大工、高野山史料に注目していき、三輪神道と大工集団との関係について、修験など真言密教系の宗教者が介在したのか、あるいは別の関係なのか、その実態を解明していく。博物館・文書館などでの史料調査ならびに所蔵者への聞き書き調査を行う。

本研究の特色は、従来の研究が主として対象としてきた建仁寺流・四天王寺流などの支配者側の大工集団が所蔵してきた文書ではなく、地方で活動していた末端の大工が所蔵した文書を研究対象とする点である。儀礼書には由緒も記されているが、そうした由緒は偽文書と見なされていたが、こうした文書の内容も扱う点は従来にない視点である。また、大工が所蔵する文書群を扱うことにより、大工がどのような木割書・儀礼書を読んで技術と知識を獲得したのか、どのような儀礼を執行し祝詞を作成したのかなど大工活動の実態を解明することが可能である。

先に奥会津で伝授され続けている『番匠十六巻一流之大事』を紹介したが、その分布は全国的に分布している。三輪神道と大工についての研究は管見ではないが、これまでの申請者の調査研究によれば、従来の近世における吉田家の神道支配、中井家の大工支配とは別の側面を、三輪神道系大工儀礼書という新たな史料から明らかにしようという点が本研究の独創的な点である。

このことにより、①従来知られていない未見の史料を広く学界内外に紹介し、新たな日本建築史学の研究分野を開拓できる。②中井家支配など従来知られていた大工支配・集団

とは、また別のネットワークを解明できる。③文字文化を大工がどのように取り入れたかを解明できる、といった結果が予想される。そして、この研究成果は日本建築史学だけでなく、歴史学、民俗学に新たな知見を提供できるという意義がある。

## 4. 研究成果

三輪神道系統の大工儀礼書「番匠十六巻一流之大事」、「日本番匠記」系本の大工由緒書「番匠記」、唯一神道系と推定される「唯一神道上棟次第」の主に三つの儀礼書・由緒書を中心に、その所在調査を全国的に行った。三輪神道系統の大工儀礼書「番匠十六巻一流之大事」、「日本番匠記」系本の大工由緒書「番匠記」、唯一神道系と推定される「唯一神道上棟次第」の主に三つの儀礼書・由緒書を中心に、その所在調査を全国的に行った。

2009年度は、三輪神道系統の大工儀礼書「番匠十六巻一流之大事」、「日本番匠記」系本の大工由緒書「番匠記」、唯一神道系と推定される「唯一神道上棟次第」の主に三つの儀礼書・由緒書を中心に、その所在調査を西日本を中心に行った。

三輪神道系統の大工儀礼書では石川県金沢市の加賀藩大工棟梁を務めた清水家文書、和歌山県和歌山市の鳥羽家文書にあることが確認された。清水家は現在の大手ゼネコン清水建設であり、三輪神道との関係があった点は興味深い。また、鳥羽家文書の「番匠拾八通之切紙」は、①寛永15年(1638)と管見では最古の文書であること、②根来寺の棟梁家である鳥羽家が所蔵していたこと、③「神道番匠之大事」という三輪神道系の文書が文政6年(1823)にも書写されていることが特筆される。

唯一神道系では、福岡県福岡市の黒田藩大工棟梁を務めた林家文書にあることが確認された。各藩の棟梁職を務めた家が儀礼書、特に三輪神道系統の大工儀礼書を所蔵していた点は、近世における吉田家の神道支配、中井家の大工支配とは別の側面を探る端緒になる。

2010年度は、三輪神道系統の大工儀礼書では和歌山県和歌山市の丹生家文書、秋田県秋田市立図書館蔵文書が発見された。

丹生家文書は幕末に書写された文書で、実際に儀礼で使用されたと推定される。

また、秋田市立図書館蔵文書は『番匠秘書』という題があり、三輪神道における建築儀礼次第の記述に陰陽道書『籠篋内伝』造屋編の内容が含まれている点が特筆される。

儀礼書に記されている呪い歌では「霜柱水の梁に雪の桁雨の垂木に露の葺き草」が火伏せの歌として全国的に分布している。大工儀礼書にも記されており、先述した文書にも記されている。長野県長野市の文書に、上棟式

の祝詞に同歌が記されていた。このことにより、大工儀礼書に記された歌が、実際に上棟式という儀礼の場で歌われた事が確認された。

2011年度は、高野山大学附属図書館、京都大学附属図書館、岐阜女子大学地域研究所、岡山県立記録史料館、香川県立文書館、鹿児島県立図書館、長崎県立歴史文化博物館などで史料調査を行った。

三輪神道系統の大工儀礼書では、長崎県立歴史文化博物館所蔵山口麻太郎史料に注目すべき史料「大工口伝呪法」があった。同史料は長崎県壱岐の史料で、巻末に「肥前国松浦郡名護屋之住人三吉了 干時慶長一六辛亥3月日心翁書之」とある。慶長16年(1611)に肥前国松浦郡名護屋の大工が伝授された巻物であり、管見では最古である。

高野山大学附属図書では、三輪神道系統の大工儀礼書は「大工印信一八通」が基本書であり、番匠十六巻一流之大事」は省略されたものであることが明らかになった。また真言密教の秘法を伝授する過程が記された日記から、「大工印信一八通」が修行の後半で伝授されることもわかった。

京都大学附属図書館所蔵の大工文書も三輪神道系であることが明らかとなったが、伝来などは不詳である。

岐阜女子大学地域文化研究所が所蔵する真長寺文書は、真言宗の文書群であり、三輪神道系統の印信などが多数確認された。また同寺の別当は三輪神社であり、真言宗と三輪神道との関係が明らかとなった。

静岡県島田市の岡村建設が所蔵する大工文書(元禄8)も三輪神道系統であることが確認された。同家は智満寺のお抱え大工で京都から移住したという伝承がある。元禄8年の銘がある文書を1984年にも書写している点が特筆される。

三輪神道系統の大工儀礼書は、近世初期の銘を持つ文書が全国各地で発見することができることから、近世初期から広範囲に流布したと考えられる。しかし、流布していく経緯、高野山あるいは三輪神道との支配関係など不詳な点が数多くある。今後の課題としたい。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

- ①. 坪郷英彦・宮内貴久・工藤芳彰、「八王子祭山車はどのように認識されているか」『民具研究』第140号、査読有り、2009年、79～90頁
- ②. 宮内貴久「生活感なき衣食住研究」『日本民俗学』第262号、査読なし、2010年、39

～51頁

- ③. 宮内貴久「風水ブーム再考」『お茶の水女子大学比較日本学研究センター研究年報』第7号、査読なし、2011年、7～14頁
- ④. 宮内貴久「福島県会津地方の建築文化—番匠巻物を中心に—」『お茶の水女子大学比較日本学研究センター研究年報』第7号、査読なし、2011年、315～320頁
- ⑤. 宮内貴久「Change in Viewing a Fetus: Consumption of Ultrasound Photos」『お茶の水女子大学比較日本学研究センター研究年報』第8号、査読なし、2012年、39～47頁

[学会発表] (計5件)

- ①. 宮内貴久「風水ブーム再考」、第12回国際日本学シンポジウム「都市・建築・空間の国際日本学」、2010年7月3日、お茶の水女子大学
- ②. 宮内貴久「胎児観の変容」、第62回日本民俗学会年会、2010年10月3日、東北大学
- ③. 宮内貴久「会津地方の建築文化」、タイ国日本研究国際シンポジウム2010、招待講演、2010年10月26日、Chulalongkorn University, Thailand
- ④. 宮内貴久「日本の家相民俗」、中部大学大学院国際人間学研究科国際関係学専攻主催学際シンポジウム「風水思想と東アジア」、2011年10月8日、中部大学
- ⑤. 宮内貴久「Change in Viewing a Fetus: Consumption of Ultrasound Photos」Consumption and Consumerism in Japanese Culture 招待講演、2011年11月15日、Charles University, Prague, Czech

[図書] (計3件)

- ①. 宮内貴久『風水と家相の歴史』吉川弘文館、2009年、227頁
- ②. 宮内貴久「奥会津の番匠巻物」笹原亮二編『口頭伝承と文字文化—文字の民俗学、声の歴史学—』思文閣出版、2009年、122～148頁
- ③. 宮内貴久「家の神信仰—屋内神と屋敷神—」谷口貢編『日本の民俗信仰』、八千代出版社、2009年、25～36頁

[その他]

ホームページ等

<http://www.aesthe.ocha.ac.jp/profs/miyauchi/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

宮内 貴久 (MIYAUCHI TAKAHISA)  
お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科学研究科・准教授  
研究者番号：10327231

(2) 研究分担者  
無し

(3) 連携研究者  
無し